

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200121	事業の開始年月日	平成23年10月1日
		指定年月日	平成23年10月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花織 なかはら (花物語なかはらより改名26.7.1)		
所在地	(211-0051) 川崎市中原区宮内 2-17-36		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	15名
		宿泊定員	9名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花織なかはらは、南武線武蔵新城より、徒歩20分のところの、閑静な住宅街の中にあります。平成23年10月1日開設。認知症対応型共同生活介護と、小規模多機能型居宅介護の複合施設です。共同生活でありながらも、お一人お一人の“個”を尊重し、その人らしく、当たり前前の共同生活をお過ごしいただけるよう、職員一丸で取り組んでいます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年9月16日	評価機関 評価決定日	平成26年12月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は南武線武蔵溝の口、東急田園都市線溝の口駅からバスで20分、または武蔵新城、武蔵中原駅より徒歩20分の場所にある。住み慣れた地域での暮らしの継続と、利用者の意思を尊重し、意欲と可能性を引出し、幸せを実感できることを理念に挙げている。事業所の庭先に踏み石敷き、花を植え、「なかはらの小路」を散歩コースにしたり、湯河原の湯を取り寄せ足湯にしたり、陶芸などを行っている。法人の方針でもある生花を飾り、明るい雰囲気づくりをしている。名称も「花物語」から「花織」に変え、人と地域とが交わり織りなすことをめざしている。

**【地域との連携、交流】**  
自治会長の協力により、事業所敷地内にお祭りの神輿の休憩場所を設けて、利用者は勿論、近隣の方々にも大変、喜ばれている。近隣の人々との信頼関係ができ、町内会長や近隣の方を含めた緊急用連絡網を用意している。近くの高齢者住宅のレストランを利用し、地域の人たちとの交流の機会にもなっている。地域のお年寄りが元気に生活できているか、困りごとはないかなど、気を配り、無料で訪問したり、声かけをしたり相談に乗ったりするなど、地域に根差す努力をしている。

**【職員の協調】**  
職員同士が協力し利用者の機能維持のためのアイデアを出しあい、粘土工作、貼り絵、ポーチ作りや縫い物、花活け等を行っている。また、毎日のミニカンファレンスで利用者それぞれの状態を確認し、その日のADLに応じたケアを行う。拘束については事例検討を交え研修を行い、言葉による拘束や危険防止の対応について確認している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	花織 なかはら
ユニット名	小規模多機能

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で生活している利用者様の意思を尊重し幸せを実感できる環境作りを目指しています。また地域の皆様とご家族様と共に職員も加わり笑顔が見られるように心がけています。	併設のグループホームの開設時に職員と話し合い作成した理念を当事業所のものとして、玄関や事務室に掲示している。職員は利用者の意思を尊重し、意欲や可能性を引き出すため、利用者の変化や家族の状況を把握して、地域の一員として安心して生活できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りのお神輿の休憩所の提供、町内会の盆踊りの参加、PTAの資源回収に協力、保育園なども交流させて頂いております。また散歩などの時は近隣の方にお声を掛けて頂いております。町内会にも加入し交流をしています。	宮内自治会に加入し盆踊りや地域のお祭りに参加している。PTAの資源回収にも協力している。ボランティアによる催し物や家族のチェロ演奏会を行ったり、お祭りの時は神輿の休憩所として地域の方達との交流の場になっている。近隣のお困りの方を無料で訪問したり、声かけをするなど、地域に根差す努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会のお食事会などで、近隣の方々に小規模の説明と同時に認知症についても説明しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で自治会や包括支援センターからのお知らせや意見などをご家族様にお便りでお知らせしたり、来所時にお知らせしています。またご家族様からの要望（献立等）の検討も致しています。	運営推進会議は利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月ごとに開催している。今後の地域との交わりや、資源回収、祭の打合わせなどの話し合いを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター・民生員・自治会より運営推進会議などで情報をお伝えしアドバイスを頂いております。	区や地域包括支援センターとは利用者の紹介や困難事例などの相談をしている。川崎市小規模多機能居宅事業者連絡会（3か月に1回）に、ケアマネジャーが参加して介護や運営に活かしている。市から研修の情報を得て、職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロの手引き』をもとに事例検討も含め、勉強会を開いています。玄関の施錠においては誰もが開閉が出来、また足湯がある為安全上施錠をさせて頂いております。	「身体拘束ゼロの手引き」をもとに身近な事例の検討を交え「拘束とは何か」を認識して拘束のないケアを徹底している。玄関と、ベランダに出る掃出し窓は開錠しているので見守りを徹底している。足湯がある入口には安全上、フロアのドアを施錠している。職員の言葉による拘束についても十分検討し、対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で、事例検討も含めどういった場合に虐待になりうるケースか話し合っ理解を深めています。場合によってはご家族様を交えての話し合いをもっております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このサービスを必要としている利用者はまだおりませんが、認知症ケアを行う上で、必要な知識として勉強会や研修に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	通いから泊まりあるいは帰宅時間の変更などを柔軟に出来る事や医療的な対応が必要な場合などの説明を行い互いに確認し合っております。また介護保険料の改定なども書面をもって説明させて頂きました。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中でご家族様からのイベント、特にドライブなどを多くもってほしいと要望があった為、意見をもとに行事を行っております。	通いの送迎時や管理者、ケアマネジャーの訪問の際、家族の意見を聞いたり、通いの連絡帳に書かれた意見をミニカンファレンスや会議で共有し、対処している。食事を弁当に変えたところ不評だったので、上質の食器に戻した事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で業務内容やサービスの提供等について意見や提案を検討し随時取り入れています。また運営会議の内容を報告し意見を聞く機会を設けています。	毎日の朝礼や随時行なうカンファレンスで意見が出されている。管理者は普段から職員の希望や意見を聞き取っている。職員同士、良好な関係にあり、年間行事の企画、毎日の作業、遊びなどの計画内容は職員の意見に任せている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時や日頃の面談で、それぞれの目標を決めモチベーションをもった仕事をして頂いております。また就業条件についても本人の意向に沿えるよう出来る限り配慮します。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時研修や定期的な研修を組み込み全員参加、または書面にて回覧をしています。積極的に外部研修も参加して職員会議等で周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小規模連絡会の参加や施設間の行き来または電話などによって相談サービスの向上を図っています。また近隣施設の訪問による情報交換をもさせて頂いております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前よりご本人様やご家族様に要望や不安な事の聞き取り、その都度傾聴し、要望に沿える様に支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前からご本人様やご家族様の要望や不安に思っている事を聞き取りその都度要望に沿える様に支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様とご家族様の精神的物理的環境を考慮しサービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLや意欲に沿った方法でレクや日常生活の動作と一緒に行動することで楽しみや仕事の出来る喜びを分かち合っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況も考慮し送迎時間やお泊りなどを提案させて頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達がお見えになられた時やご家族様からご本人にお電話をかけてきた際は聞こえるように解るようにコミュニケーションの支援を行っています。	長期の泊りの方に高齢の友人や、遠くに住む家族が訪ねてくる。その際はパーティションで分けた居室でお茶を出して歓談して貰う。電話の取次ぎもする。近くのコンビニへの買い物、高齢者住宅内のレストランなど馴染みの場所に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用の日に利用者様同士がより良い関係が構築できる様に場合によって職員も加わり関係を築いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方は家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行なっています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにてご本人様の意向や希望を把握を随時行っております。	契約時のアセスメントで本人、家族の意向を把握している。その後、利用者との日常の会話から思いを聞いている。意思表示が困難な方については表情や目の動き、仕草から把握している。家族からの連絡ノートに書かれた利用者の情報をコピーし個人記録に貼ったり、ミニカンファレンスや申し送り時に職員と共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の担当ケアマネージャー及び家族や本人からの情報を頂き、今までやってきたこと（家事や趣味等）が継続できるよう支援を行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中でモニタリングやカンファレンスまたはアセスメントを行い、介護計画書を作成し、職員同士で共有を行っております。	ケアプランは利用者、家族の希望を聞き、それに基づいてケアマネジャーが職員の意見も聞き、長期・短期に分けて作成している。その日、その日の利用者のADL状況を見て、職員と具体的なケア方法を相談して実施している。サービス担当者会議や日々のケアの中でモニタリングやアセスメントを行い、長期・短期の期間ごとに見直している。	どの職員が見ても個別のケアが出来るよう、明確で具体的な計画を作成し、実践することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているかをリサーチし申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の関係性や今までの生活歴を考慮しかかりつけ医の受診の支援やご近所との関係を考慮し調整を図っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の回覧版や民生員からの情報を得て今年は保育園訪問やお神輿の休憩所の提供、盆踊りに参加することができました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様との関係を重視しながら今までのかかりつけ医に受診されています。受診の際には施設看護師より健康状態を家族様や医師の方にお伝えしております。場合によってはご家族様の要望で受診に同行する場合もございます。	利用者は家族が付き添ってそれぞれのかかりつけ医を受診している。往診もある。緊急時などには職員が通院の介助をする。また、必要に応じて家族に同行する。家族対応時の受診情報は連絡帳で把握している。事業所の看護師が健康管理を行なっている。また、受診の要否の判断も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、介護職員、看護職員が互いに相談をし、個人記録に記入、情報の共有をしています。そして受診や看護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によりサービス継続が困難な方がいましたがご家族様や病院の相談員や看護師と連携をとりご本人の状況を確認し対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時などに行く病院や判断が必要な場合の対応など、ご家族様とその都度話し合いを行っております。職員とご家族様の情報共有を図っております。	利用開始時に「利用者の状態などが重度化した場合の対応に関する指針」を使って説明し、家族の同意を得ている。ターミナルケアについては本社研修と事業所内研修とを行なっている。「ターミナルケアマニュアル」がある。利用開始時からターミナルケアを想定し、理念をもとにできる範囲で対応する考えである。利用者の病気が重度化し、亡くなる4日前まで見守りケアを行った例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突発的な急変や事故に備え、研修や実施訓練などで、指導育成に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自の防災マニュアルにもとづき、すぐ行動が起こせるように、定期的な防災訓練を行っています。食量の備蓄のチェックも行っております。	防災訓練は年2回、1回は消防署の協力の基に併設のグループホームと合同で実施している。防災用非常食を近隣の方の分も含めて備蓄している。非常食一覧表を作成し、賞味期限を管理している。町内会長や近隣の方を含めた緊急用連絡網を用意している。職員間は携帯電話連絡網で夜でも連絡がつく。	

自己評価	外部評価	項 目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴や性格を考慮して、たとえば不穏状態が続いても言葉かけや対応に気を配りながら対応しています。	職員は新人研修や法人研修で接遇の研修を受けている。プライバシーに関しても、個人情報範囲の範囲、なぜ守らねばならないかについて研修を行い、職員に理解を促している。利用者、家族に無断で施設内に写真を貼らないこととしており、現在は1枚も貼っていない。個人情報を含む書類は、鍵のかかる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	購入品の希望があった場合は一緒に買い物に行き、自分で選べるように働きかけています。また普段の洋服の着替えや飲み物なども自分で選べるように声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の日常のペースで働きたいのか、散歩に行きたいのかのんびり過ごしたいのかなどを聞いたり観察したりしてから、行動を共にしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着ていいのか、どうしたらよいか悩んでいるご利用者様には職員がお声かけをして洋服を選んで頂いております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に向かう楽しさをご利用者様お一人お一人の生活歴や意向を確認し、能力に応じた食事の準備や下膳や後片づけをさりげなく声掛けをして行っております。	食材と献立表は業者から届き、職員が調理している。夕食のみ、まごころ弁当が届く。利用者は、テーブル拭き、水を配るなどできることを手伝っている。食器は上質の陶器を使って美味しい雰囲気づくりをしている。日常の食事は職員と一緒に食べず見守りを行っているが、行事のときは行事食と一緒に食べる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態に合わせてご飯の量を盛付けたり、適当な水分量が確保出来る様に、声掛け等の支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守り、必要に応じ介助を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人個人のADLや排泄パターンに応じて声掛けや誘導を行ったり、パット交換を行っております。	排泄チェック表を記入し、パターンを把握している。日中は、リハビリパンツ、綿パンツ利用の方が多い。利用者は皆、自立に近いが、職員は必ず立ち会い、見守りや支援をしている。トイレ内で失敗した際は、そっと風呂場に案内し、できるだけ自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	随時、体操（1日2回）を取り入れ、必要な水分量の確保を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日は決まっておりますが、その方の気分や体調の変化で日時が変更になることがあります。入浴ができない状態の時は足浴や清拭で対応しています。	通いのときに、週2回以上の入浴を予定しているが、毎日準備し希望に応じている。ミストシャワー、リフトの設備があるが、今のところ利用者は皆、自力で湯船に入っている。足湯用の湯は、湯河原から週に1回運んでいる。季節の菖蒲湯やかんきつ類そのものを入れて入浴を楽しんでいる。入りたがらない方には、声掛けを工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様が自由に通いスペースや宿泊室にて過ごしています。お一人での移動が困難な場合は、その時の状態観察をしながら、休息のお声掛け誘導を行っております。夜間は安眠して頂ける様、日中の活動内容なども考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には特に配慮し、病状の変化などがあった場合は連絡ノート又は電話等で、ご家族様に報告しております。個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬支援を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ得意の分野で、庭の水まきや食事の為のお手伝いや洗濯物を干すなどのお手伝いをして頂いております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候なども配慮し、庭の散歩や近所への散歩を職員と共に参加して頂いております。	日常的に、庭に花や多年草、トマト、キャベツなどを植えて造った散歩道「なかはらの小路」や、砂利道をリハビリとして歩いたり、近くの神社や、おやつ食材を買いにスーパーや、コンビニに出かけている。行事で桜やバラを見にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新しい品物や必要な物品についてはご家族に相談して買い物を一緒にしたり、職員が用意していません。お金はおもちゃ頂いておりませんが、立替金にて次月にお支払頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に帰りたいと言う訴えがあった時や用事があった時は、家族の了解のもと、電話や手紙が出来る様に支援を行なっています。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下やフロア内には、季節の花を飾り季節感を感じて頂いています。また壁には季節感を感じられる壁掛けをかけています。アルバムを置きご家族や来訪者との会話に繋げています。	玄関に毎週季節の生花を飾ったり、花にちなんだ絵や花瓶を飾り華やかにしている。またベランダのプランターや庭に、色とりどりの草花を植えている。リビングダイニングの壁には、貼り絵や押し花、リースなど利用者が職員と作った作品が飾られている。清掃は毎日行い清潔を保ち居心地よく過ごせるよう配慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはソファ冬はこたつを設置し一人になれる空間を提供しております。また利用日に応じて気の合うご利用者様同士の食席を変更しております。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室のお部屋をコーディネートしてご自宅に近い感覚で過ごして頂けるように配慮を行っております。また今まで使っていた鏡や櫛をもって頂き過ごして頂いております。	泊まりの部屋は1階に和室3部屋、2階に洋室6部屋ある。白を基調に統一された部屋や小さい箆笥など調度品を置くなど、それぞれ個性のある部屋にしている。泊りの時には使い慣れた枕やクッションを持参している方もいる。長く宿泊する方は、配偶者の写真や馴染みの時計を持参している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力に合わせて、家事の継続を行っています。現在は洗濯干しやたたむこと、花壇の水まき、テーブル拭きや下膳などを手伝って頂いております。洗面では口腔ケアや整髪など個別性を重視した環境を目指し自立した生活を送れるよう支援しています。	

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 花織つかほら

作成日 H26.12.

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		ケアプランの明確さ	どの職種が見ても 似別のケアが出来る ような計画を作成 できる。	介護職員とケアマネ との定例会カンファレンス で担当者会議を つらえ、情報を共有し ケアプランを作成する	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。